

■ 1 教育目標と行動指針

知育 発達段階に応じたカリキュラムで「考える力」を養う

0才から5才まで、数の認識、物理的認識、言葉の認識や論理的思考能力等、長年の研究と心理学の父といわれた J.ピアジェ博士が、数多くの子どもたちに実験して体系化した認識論をベースにした発達プログラムをカリキュラムに取り入れています。子どもたちが好奇心を持って、自発的に活動する環境が大切で、遊びながら創意工夫することによって新たな発見をして、また、次のことにチャレンジするといった好循環が「考える力」すなわち創造性や論理性を養うのです。幼稚園の発達プログラムは将来を大きく左右します。興味が湧き、今より少し困難な環境を整えることが肝要ですが、発達段階を理解していないと、あまりにも簡単なことや反対に難しすぎる課題を与えてしまい、子どもの探究心を削いでしまうのです。また、できる子、できない子、答えが正しい、間違い等という観点からではなく、一人ひとりの子どもの発想と自分で考えることを大切に、「今より一歩」を目標に、子どもの可能性を引き出す環境を整えています。

徳育 色々なグループ活動で「人間力」を養う

同年齢間や異年齢間での様々なグループ活動から、「思いやり」「たくましさ」「協調性」

「奉仕の精神」を養います。子どもは子ども同士で、楽しんだり、時にはけんかしたりして、いつも自分の主張が通らないことを感じたりしながら社会性を身につけていきます。

月に1度のおたのしみ会（全学年で行う縦割り保育）なかよし会（クラスの枠を取り学年ごとで行う保育）、ふれあい会（ふれあいを大切にした縦割り保育）、また、お泊まり保育や音楽劇発表会（年長児）や運動会の行事を通じて、様々なグループ活動でリーダーの経験をしたり、困った友達を助けたり、いろいろな経験を積み重ねながら喜怒哀楽を適度に経験することが大切です。また、人前ではっきり自分の考えや意見を言ったり、友達の意見をよく聞いたりする人間関係の基本を学びます。

体育 体系的な体育プログラムで「体力」を養う

近年、日本全体で子どもの体力が低下して、深刻な問題となっています。一昔前では考えられなかった体育の家庭教師等も現実のものとなりつつあります。また、転んでも手がつけず顔を打つ子どもや、暑い、寒いと泣く子どもが現れたり、体の硬い子どもも増える傾向にあります。そこで、本学園では、このような傾向に歯止めをかけ、昔の子どものような体力を取り戻そうと、行事等の特別な場合を除き、保育開始前 20 分程度マラソンや柔軟体操を行い子どもたちの体力づくりを行います。幼児期は部分的な筋力を鍛えたり、過度な運動をさせるのではなく、転倒による怪我等の減少効果もあります。また、跳び箱、マット運動、鉄棒、縄跳び、サッカー、ドッジボール、プール等色々な経験をさせることも大切です。

各学年の発達に合わせ、体育がんばり表でチャレンジする喜びを感じながら、卒園時には、全員が跳び箱5段を跳べ、逆上がりができることを目標にしています。

食育

調理の過程を観察したり、スーパーでしか見たことのない野菜を園内の菜園で育て、収穫し食べることにより感謝の気持ちを育てます。また、今まで知らなかった野菜の成長過程を知り、いろいろな発見につなげていくことを目標にします。

■ 2 達成及び取り組み状況と今後の課題

子どもが興味や好奇心を抱き、自発的に環境に働きかけ、環境からの新たな刺激に対して試行錯誤しながら適応して、また環境に働きかけるといった好循環が本質的に重要な知能を伸ばす行為だと、確信を持って幼稚園教育を行ってきました。また、「今より一歩」、「やればできる」の精神で耐性を鍛えることが、生き抜く力の源だと、安易な放任主義は排除してきました。本学園の教育環境の質をさらに向上させるとともに、保育園の安全、衛生管理などの質の高いところを取り入れ、0才～5、6才の連続した教育環境を整えてまいりました。

31年度も、一人ひとりが、歩学園幼稚園の職員である自覚と責任を持ち、認定こども園としての質の向上に努めていく。

■3 学校関係者評価

〈年長組〉

- ・ お母さん先生は、子どもの様子を見る事ができるいい機会だと思い希望した。

子どもの様子を見て、当たり前的事（靴を揃える、挨拶をする等）が自然にできるようになった。親が揃えていないと子どもから言われる。
- ・ 子どもが、歩幼稚園が大好きで、「卒園式に出たくない」と言っている。
- ・ 1学期のお母さん先生の時は、元気なクラスで少し大変だったが、席替えをする事により、落ち着いてきたと感じる。先生が良く考えて席替えをして下さっている事が伝わる。
- ・ 生活展での子どもの様子を、担任だけでなく他の先生も伝えてくれる。職員皆で育てている園だと伝わる。
- ・ 子どもの自由な表現や個性を認めてくれている。ネズミの色を塗るときに色々な色で塗っていて、子ども同士が「これ、いいね!」と言っていた。
- ・ トラブルがあっても、友達同士で解決していた。生活展、最後の英語・体育参観で子ども大きな成長が見られた。
- ・ それぞれの個性が尊重されていて、良くない部分も見ているが、それも個性だととらえている。
- ・ バンビの時からお世話になっている。自分の子どもは成長が遅かったが、一人一人に丁寧にかかわってくださり、とても成長させて頂いた。

- ・ あひるクラブまでは順調だったが、入園してから園に慣れるまでに時間がかかった。

ゆっくりその子のペースに合わせてかかわってくれた。今では、早く幼稚園に行きたい！

とせかされるくらいだ。

- ・ 年少・年中・年長と、年齢に応じたかかわりをしてくれた。

〈年中組〉

- ・ 生活展の共同製作の大きな作品を、持って帰っている様子を見て、「来年頑張る！」と言っている。年上の子どもの姿を見せて、次の目標が自然に芽生えてくる様に育てて下さっている。
- ・ 子どもが来年年長組で、先日バスから降りてきてすぐに「来年すみれ組になる！」と教えてくれた。年長組に向けてやる気に満ちあふれている。鼓笛の曲も、今から口ずさんでおり、年長への憧れでいっぱい様子である。
- ・ 年少組の時に、白ご飯が全く食べれず時間がかかったが、その時の担任の先生が無理矢理せずに少しずつ食べれる様に根気よく声をかけてくれた。
- ・ 兄弟3人いて、年少・年中・年長と、お母さん先生をさせていただいた。8年間で3回し、いい体験ができた。
- ・ 担任の先生が妊娠して途中で先生が変わり、子どもにとってどうなんだろうと心配だったが、今日の子どもの姿を見て安心した。

- ・ 担任の先生のお腹がだんだん大きくなって来るのを間近で見て、赤ちゃんが生まれてくるのを意識していた。お母さんごっこをして自分は赤ちゃん役になり、お母さんのお腹の中にいて、出産するまでの遊びをしている。「くるりん、くるりん、ポン！と生まれるの！」と言っている。
- ・ 鼓笛隊の曲を家でもよく歌っていて、年中組で大きく成長したと感じる。
- ・ 毎日楽しく通っていて、幼稚園の事を家で良く話している。先生役を自分がして、「さて、クイズです」というように先生になって伝えている。
- ・ お母さん先生を来年もしたいと思えるほど、楽しい。
- ・ お母さん先生として、いつ行っても子ども達がウエルカムな形で迎えてくれる。
- ・ 無邪気な子ども達の様子を見れて、貴重な経験になった。

〈年少組〉

- ・ 1学期からの成長を感じた。子ども同士声を掛け合い、静かにしようとしていた。できない子どもに、「こうだよ」と教えてあげる姿が見られた。
- ・ お母さん先生をさせていただき、半分先生の気持ちになる。行事の時も自分の子どもだけでなく、他の子どももよく見て感じられる様になった。これからの2年間も同じクラスだった子どもの成長を見守っていきたい。
- ・ 入園時に泣くと思っていたが、バスに泣かずに乗って行った。帰って来た時に「楽しか

った」と言ってくれて先生方のサポートに感謝している。

- ・ 自分の知らない所で成長していくのが嬉しい。今後の成長が楽しみ。
- ・ 長男（年長組）の入園前の「あひるクラブ」から来ている。年長組生活展のスケールの大ききからこの園に入ろうと決めていた。
- ・ 年長組の兄を見ていて、人間の進化を感じる。とてもマイペースな兄だが、その子がその子らしく育っていると感じる。年長の鼓笛隊を見据えた一貫性のある教育が素晴らしい。
- ・ バンビから来ているが、バンビではきめ細やかに手取り足取り教えてくれて、年少になってからは、自分の事は自分でやろうとする姿が見られた。
- ・ 2学期のお母さん先生の際は落ち着いていたが、今回はパワーアップしすぎてすわらない子どもがいた。この子達をまとめている先生は、すごいなあ～と感じた。
- ・ お母さん先生をさせていただき、園とかかわれて楽しいと思えた。
- ・ 友達同士が助け合う姿が見られ、配り物をしたら「ありがとう」という言葉が自然にでる。
- ・ 運動会をみんなで頑張る！という体験を通して、こんなに成長するんだと感じた。
- ・ 習い事の教室で、4・5人で活動しているが、バラバラの状態が続いている。幼稚園では、みんなまとまってきており、先生方の努力が伝わる。